

ひとつづばたご

祭り

対馬市の木で、国の天然記念物の「ひとつづばたご群生地」で知られる上対馬町鰐浦（わにうら）地区で、ゴールデンウィーク中の五月二日、ひとつづばたご祭りが開催され、約二千五百名の人出で賑わいました。

祭りは10時から始まり、沖合いからひとつづばたごを眺める「遊覧航海」、商工青年部による「サザエの銚突き体験」、比田勝保育園児と上対馬高校生の「野点（のだて）」、舟志愛鼓連の太鼓、寿川会の「なんじゃもんじゃ音頭」の踊り、上対馬高校ブラスバンド部の演奏など多彩な催しが行われました。

特産品コーナーでは、ひとつづばたごの苗木販売やサザエなどの海の幸販売、地区の皆さん特製のサザエめし弁当、ちまき、ゴマだんご、そばの販売も行われ、お昼には完売になる人気でした。

また、姉妹関係の岐阜県蛭川村（ひるかわむら）から、林収入役、曾我議長ほか三名が祭りに参加し、蛭川村特製のもちを使った「もちまき」が行われました。



ひとつづばたごは大陸系のモクセイ科の落葉高木で、中国、台湾、朝鮮半島に分布し、国内では、中部地方の木曾川流域と対馬に自生する。特に鰐浦地区には山の斜面に三千本以上が群生し、昭和三年に国の天然記念物に指定された珍しい花として別名「なんじやもんじゃ」とも呼ばれる。





Interview

インタビュー

(宮原勝美区長)



ようこそ「ひとつばたご祭り」にお出でくださいました。四月二十五日の区内大掃除から始まり、昨日の朝から、区民133名で祭りの準備をしてまいりました。今年は花の咲き具合が悪く、せっかくお出でいただいたのに残念ですが、そのかわりにたくさんのイベントや区特製のサザエめし弁当やゴマだんご、そばなども準備しております。お祭りをゆつくり楽しんでいただきたいと思います。

今後は、この祭りが、アラン祭りやちんぐ音楽祭、国境マラソンのように、対馬の大きなイベントになればと期待しています。

(蛭川村・林壽土収入役)



上対馬町と蛭川村は「ひとつばたご」を縁に姉妹縁組いたしました。私は今回で三回目の対馬です。蛭川村も来年二月には中津川市と合併しますので、今回が蛭川村としては最後の参加となりますが、今後とも、対馬市との交流が盛んになればと思っております。特に、小学生の相互訪問につきましては、とても友好的な交流が続いております。この関係を大切にしたいと思います。

また、五月十六日には、ひとつばたごサミットを開催いたします。ぜひ一度蛭川村にもお出でいただきたいと思います。